

# Theater Donuts Experience

映画とドーナツが紡ぐ、対話と未来の記録

Visit Log

## 2025.12 - コザ、シアタードーナツにて

2025年12月末。私は沖縄市コザにある「シアタードーナツ」を訪れた。ここへ来るのは二度目だ。以前はカフェとして立ち寄ったが、今回は「一本の映画を味わう」という明確な目的があった。

上映までの時間を、二階の待合室で過ごす。香ばしいドーナツの香りが漂い、壁には上映作品のパンフレットが丁寧に並べられている。アールグレイドーナツを一口頬張りながら、静かに期待を膨らませる。



### リビングのような客席と、店主の「前説」

いよいよシアターへ。そこには整列した座席ではなく、ゆったりとしたソファや個性豊かな椅子が並んでいた。上映前には、店主の宮島さんが登場し、名物の「前説」が始まる。「今日はどこから来たの?」「どうしてこの映画を選んだの?」普通の映画館ではあり得ない、観客一人ひとりとの対話。この場所が「ただ映画を流す箱」ではないことを、肌で感じる瞬間だった。

The System

## 「想い」が積み重なり、形になる場所

鑑賞にあたって、私が利用したいのが「U22チケット」だ。これは、大人が1枚700円で購入し、学生（22歳以下）へ贈る寄付型の鑑賞チケットである。

SINCE 2021

善意の循環、その圧倒的な証

累計利用枚数

# 2,000枚以上

この数字は、単なるチケットの数ではありません。この場所で生まれた2,000回以上の感動、2,000人以上の大人たちの願い、そして2,000通以上の若者たちの声。そのすべてが積み重なった、確かな「循環」の記録です。

### 仕組みの美しさは「対話」にある

- 1 大人がチケットを購入し、未来の誰かへ温かなメッセージを添える。
- 2 学生は、その善意を使って無料で映画を鑑賞する。
- 3 鑑賞後、学生は自分の言葉で感想を書き込み、大人へ思いを返す。

今回、私が鑑賞した『人生フルーツ』（<https://life-is-fruity.com>）も、このチケットを通して途切れることなく若者へと手渡されてきた作品だ。一枚の紙切れに綴られた見知らぬ誰かへのメッセージが、若者の心を豊かな世界へと繋ぐ扉になっている。

Social Context

## 「体験の格差」という見えない貧困

なぜ、このチケットがこれほどまでに求められ続けてきたのか。その背景には、沖縄が抱える「子どもの貧困」という深刻な現実がある。

### 沖縄県における現状のデータ

子どもの貧困率（沖縄）  
**24.9%**  
全国平均 11.5%の約2倍

1人当たり県民所得  
**全国第47位**  
最下位水準が続く

※参考：沖縄県「沖縄県子どもの生活実態調査(2022年公表)」、厚生労働省「国民生活基礎調査(2023年公表)」、内閣府「県民経済計算(令和3年度版)」

沖縄における貧困は、単に生活資源が不足しているというだけではない。映画を観る、本を買う、芸術に触れる。そうした「文化的体験」が真っ先に削られる対象となることこそが本質的な問題なのだ。

### 文化的剥夺 (Cultural Deprivation)

家庭の経済状況によって、子どもたちが「豊かな感性や思考を育む機会」を失ってしまうこと。これは将来的な自己肯定感や、広い視点で社会を捉える力の差となって表れる。

U22チケットは、単に「無料映画鑑賞券」ではない。社会全体が若者に対して「君たちの感性は、社会にとって価値があるものだ」と訴え、「体験の格差」という見えない壁を壊そうとする試みだと私は考える。累計2,000枚という数字は、その壁を崩そうとする大人たちの意志の重みでもある。

「月に一度は映画館で映画を“鑑賞”してほしいです。そして、自分の言葉で感想を伝える“クチコミコミュニケーション”をしてください。映画鑑賞を通して豊かな社会とはなんだろう?というテーマに向き合う時間を沢山過ごしてほしいです。」

— 宮島真一代表

鑑賞した『人生フルーツ』の中で描かれた「丁寧な暮らし」は、経済的な数字だけで測れるものではなかった。同様に、U22チケットが繋ぐ「誰かから誰かへの善意」もまた、効率や利益を重視する現代社会が見失いつつある、本当の意味での「豊かさ」だろう。

シアタードーナツという場所と、積み重なった2,000枚以上のチケット。  
そこから生まれる「対話」は、  
沖縄の、そして私たちの未来を静かに動かしていく。

REFERENCES

映画と地域への愛が生んだ「シアタードーナツ」…宮島真一代表に伺う (Yahoo!ニュース エキスパート)